

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
総括研究報告書

国民健康づくり運動の推進に向けた飲酒の社会的影響に関するエビデンスの創出

研究代表者 池原賢代 琉球大学医学部 教授

【研究要旨】

本研究の最終年度である今年度は、既存コホートにおける実態調査及び若い成人を含む飲酒状況の実態調査、既存資料を用いた社会的損失の推計をさらに進めるとともに、飲酒状況と循環器疾患発症との関連に関する研究の推進を行い、昨年公表された飲酒ガイドライン及び令和 6 年度開始健康日本 21（第三次）の推進へ寄与することを目的とした。

成果として、飲酒ガイドライン及び健康日本 21（第三次）の飲酒分野に関する健康づくり関連雑誌での発表、論文発表、学会等での講演等を行った。実態調査では、JPHC-NEXT 研究データを用いた男女別の飲酒状況と背景要因について、また、若い成人を含む飲酒状況（AUDIT 含む）についてまとめた。そして、昨年度検討した推計方法を用いてアルコール関連問題のコストの推移を確認するため 2014 年及び 2017 年の推計を行ったところ、2014 年 3 兆 314 億円～5 兆 4,544 億円、2017 年 2 兆 9,623 億円～5 兆 5,403 億円と推計された。飲酒状況と循環器疾患発症との関連に関する研究では、大量機会飲酒を考慮した脳卒中発症リスクについて論文発表した。その他、飲酒ガイドライン及び健康日本 21（第三次）の飲酒分野に関する健康づくり関連雑誌での発表、学会でのシンポジウム等を行った。

以上のように、本研究では、研究計画に沿って、実態調査及びアルコール関連問題の社会的影響の推計、飲酒状況と循環器疾患発症との関連についてのエビデンスの拡充を進めた。そして、健康づくり関連の雑誌での発表及び学会でのシンポジウムを通して、研究者、医療保健従事者への飲酒ガイドライン及び健康日本 21（第三次）の周知を行うなどこれら施策の推進を行った。

研究分担者

磯 博康 国立研究開発法人国立国際医療研究
センター・国際医療協力局グローバル
ヘルス政策研究センター長
山岸匡良 順天堂大学・大学院医学研科・教授
金城 文 鳥取大学医学部・准教授
高田 碧 名古屋大学・大学院医学系研究科・
助教

澤田典絵 国立研究開発法人がん研究センタ
ー・がん対策研究所コホート研究部・
部長
川崎良 大阪大学・大学院医学系研究科・教
授

A. 研究目的

健康日本 21（第三次）が令和 6 年度より開
始された。飲酒分野は、個人の行動と健康状態

の改善に関する目標の生活習慣の改善の一分野に位置づけられ、「生活習慣病（NCDs）のリスクを高める量を飲酒している者の減少」、「20 歳未満の飲酒をなくす」は引き続き目標項目となった。その目標値また、ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりの女性においても「生活習慣病（NCDs）のリスクを高める量を飲酒している者の減少」が目標となっている。

今年度は、本研究の最終年度であり、既存コホートにおける実態調査及び若い成人を含む飲酒状況の実態調査、既存資料を用いた社会的損失の推計をまとめ、飲酒状況と循環器疾患発症との関連に関する研究の推進を行い、昨年公表された飲酒ガイドライン及び令和 6 年度開始健康日本 21（第三次）の推進へ寄与することを目的とした。

B. 研究方法

実態調査については、若い成人を含む飲酒状況の実態調査を行い、その集計を行った。また、既存コホート研究である JPHC-NEXT 研究のベースライン調査及び 5 年後調査データを用いて、性別に飲酒状況の背景要因の集計を行った。

アルコール関連問題のコスト推計については、年次推移を確認するため、既存資料より 2017 年の推計に加え、2014 年の推計を行った。

飲酒状況と循環器疾患発症との関連に関する研究については、CIRCS 研究において、大量機会飲酒を考慮した飲酒量と脳卒中発症リスクとの関連に関して解析し、論文発表を行った。

研究方法の詳細については、各分担研究報告書を参照されたい。

（倫理面への配慮）

すべての研究は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守しており、所属施設の倫理委員会の承認を受けている。

C. 研究結果

若い成人を含む飲酒状況の実態調査を行った結果、40 歳未満と 40 歳以上では飲酒頻度、飲酒量、大量飲酒の状況が異なり、若い世代での問題飲酒が多い傾向があった。JPHC-NEXT 研究における実態調査では、男女別に飲酒状況の背景要因の特徴を調べた結果、飲酒状況別の社会経済状況や社会的サポートの状況について男女で異なる傾向が示された。

アルコール関連問題のコスト推計については、2014 年及び 2017 年の推計を行ったところ、2014 年 3 兆 314 億円～5 兆 4,544 億円、2017 年 2 兆 9,623 億円～5 兆 5,403 億円と推計された。

CIRCS 研究における大量機会飲酒を考慮した飲酒量と脳卒中発症リスクとの関連に関して解析した結果、平均摂取量が低～中等量であっても、大量機会飲酒を伴う群では脳卒中のリスクが有意に高いことが明らかとなった。

研究結果の詳細については、各分担研究報告書を参照されたい。

D. 考察

本研究では研究計画に沿って、実態調査及びアルコール関連問題の社会的影響の推計、飲酒状況と循環器疾患発症との関連に関する研究の推進を行った。

実態調査では、若い世代における飲酒量や大量飲酒など問題飲酒が多く、また、男女で飲酒

状況の背景要因の傾向が異なっていた。今後さらにアルコール健康障害対策を進める上で、若い世代や飲酒状況の様々な背景要因を明らかにするために実態調査の拡充が求められた。

既存資料を用いたアルコール関連問題のコスト推計では、先行研究の手法を参考に昨年度検討した方法により、2014年、2017年について推計値を示され、このようなコスト推計はアルコール関連問題を低減する施策のモニタリング指標として活用ができる可能性が示唆された。さらに、大量機会飲酒を考慮した飲酒量と脳卒中発症リスクとの関連の結果から、平均的な飲酒量だけでなく、大量機会飲酒などの飲酒パターンを考慮することの重要性が示唆された。

E. 結論

本研究では研究計画に沿って、実態調査及びアルコール関連問題の社会的影響の推計、飲酒状況と循環器疾患発症との関連に関する研究の推進を行い、昨年公表された飲酒ガイドライン及び令和6年度開始健康日本21（第三次）の推進に寄与できたと考える。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Takada M, Yamagishi K, Muraki I, Shimizu Y, Tanaka M, Kihara T, Umesawa M, Imano H, Sankai T, Okada T, Kitamura A, Kiyama M, Iso H. Risk of stroke accompanying alcohol consumption with or without single-occasion drinking. *Alcohol Clin Exp*

Res (Hoboken). 2025 Mar 31. doi: 10.1111/acer.70046. Epub ahead of print. PMID: 40165519.

2. 学会発表

なし

3. その他

1) 池原賢代. 「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」ー純アルコール量に着目してー. 公衆衛生情報. 2024年4月号. p6-7

2) 池原賢代. 健康日本21（第三次）における「飲酒」に関する目標について. 健康づくり. 2024年8月号. p10-13

3) 池原賢代. 飲酒と健康リスク. 第46回アルコール関連問題学会. シンポジウム. 2024年9月19日

4) 池原賢代. 飲酒による健康リスクの知見. 第83回日本公衆衛生学会. シンポジウム. 2024年10月30日

5) 池原賢代. 「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」ー純アルコール量と健康リスクー. 第26回日本健康支援学会. 2025年3月7日

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし